

(様式 1)

令和 4 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立本所中学校
校長名	松井 隆

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・国語、数学、英語では、全学年・全観点において、平均正答率が目標値を上回っている。・1 学年においては国語、数学、理科、英語の教科の正答率・全観点において目標値を上回っている。・3 学年においては、数学の A B 層の割合が昨年度（2 年次）より約 1 1 ポイント上回り 5 8. 8 %、英語では A 層が昨年度（2 年次）より 4. 4 ポイント上回って 1 2. 6 % に達している。	<ul style="list-style-type: none">・全学年において、社会の平均正答率が目標値を下回っている。・主体的に学習に取り組む態度の観点、目標値に対して 3 学年の理科で 1 5. 4 ポイント、2 学年の理科で 6. 6 ポイント、1 学年の国語で 0. 2 ポイント下回っている。・2 学年の英語において、A B 層がそれぞれ 2 % 以上減少し、D E 層がそれぞれ 2 % 以上増加している。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全学年において、学習意欲が高い数値を示しており、特に 1 学年・3 学年では全クラスが全国値 + 2 ポイント以上となり、数値から生活習慣も定着していると考えられる。・1 学年は 2 0 項目のうち 8 項目で全国値 + 2 ポイント以上であり、- 2 ポイント以下の項目も無いことから充実した生活を送っていると考えられる。	<ul style="list-style-type: none">・1 学年・2 学年において、学習習慣が 5 0 ポイントを下回っているため、学習意欲を学習習慣に結びつける指導が必要である。・3 学年における⑨学級の絆が 4 7. 6 ポイント、3 学年及び 2 学年の対話・話し合いの項目が全国平均以下であることから、これまで以上に協働学習を取り入れるなど所属欲求を満たす工夫が必要である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・本校が独自に行っている基礎確認テスト（6 月実施）において、2 学年の社会科を除いて全教科で標準スコアを上回った。・基礎確認テストの国語、数学、英語において、A B 層の割合が全学年 5 0 % を超え、D E 層は 3 0 % 以下となっている。	<ul style="list-style-type: none">・本校が独自に行っている基礎確認テスト（6 月実施）において、2 学年の社会科が標準スコアを下回り 4 9 であった。・基礎確認テストの社会において、D E 層の割合が全学年 3 0 % を超えている。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 主体的・対話的で深い学びの実践

生徒が主体的かつ意欲的に学習活動に取り組むことができるような課題を提示し、生徒が感動する授業展開を目指すことで、学習へのモチベーションを高める工夫をしている。さらに、学習内容に関するグループワーク等の生き生きとした言語活動により、生徒同士の協働や教職員との対話を増やし、コミュニケーション能力を効果的に向上させている。また、これらの取組により自己の考えを広げるようにするとともに、学習過程での気づきや疑問を授業内で共有し、深化させることで、深い学びへ結び付けられるような場面の設定を行っている。

(2) 個別最適化学習と協働学習の推進

個別最適化学習や協働的な学習を効果的に取り入れるなど、「指導の個別化」や「学習の個性化」といった授業改革を更に進めている。具体的には、一人一台端末のアプリを活用し、生徒の能力や興味・関心に応じて主体的に学習する方法を選択したり、AI型教材を活用して生徒一人一人の学習の進捗や理解度に合わせて学習内容を調整したり、その生徒に合った学ぶ機会を広く提供することで学習内容の定着を図っている。また、ロイノート等を活用し、調べ学習、意見交換や発表活動等の協働的な学習の場면을意図的に設定するようにしている。

(3) アウトプットによる学習内容の定着

「学力向上と定着を眼目に、誰一人取り残さない」という方針の下、「確かな学力」を育むため、アウトプットによる学習内容の定着をはかっている。学習内容の定着状況に応じて、発展的な内容や基礎基本の練習問題など習熟度に応じた問題に取り組ませている。また、よむYOMUワークシートのアウトプットにより読解力の向上をはかるとともに、年間を通したふりかえりシートの計画的な活用や、AI型教材を活用して個に応じた学習を繰り返し行うことにより、着実な学力定着を図っている。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・ 令和5年度の墨田区学習状況調査において、全教科の平均正答率が目標値を上回るようにする。
- ・ 令和5年度の墨田区学習状況調査の i-check において、生活・学習習慣に関するすべての質問項目で、全国値と同等程度もしくはそれを上回るようにする。
- ・ 令和5年度の墨田区学習状況調査の観点別正答率において思考・判断・表現の正答率が、全教科で目標値を上回るようにする。